

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

愛知県 松山市

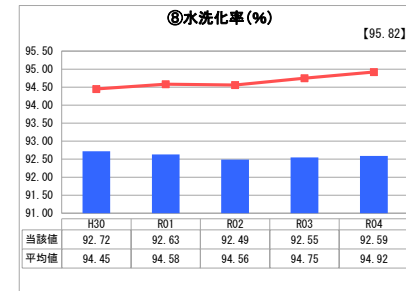
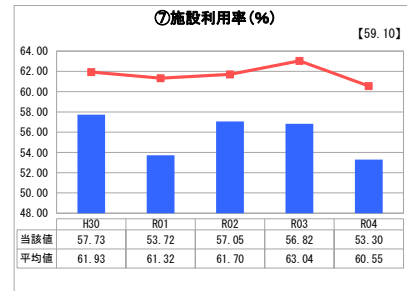
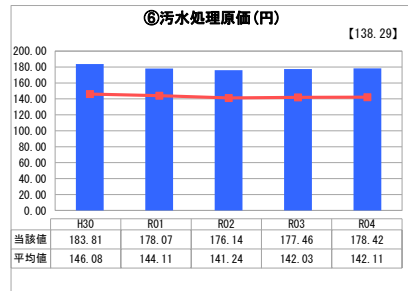
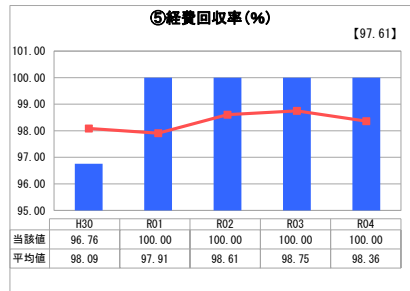
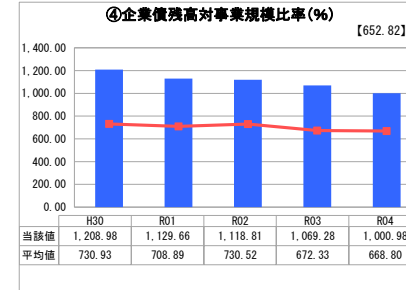
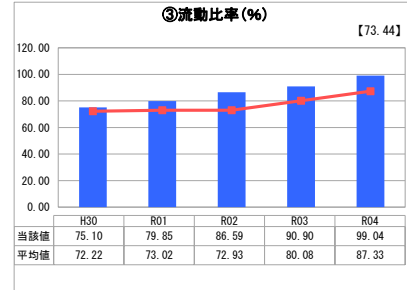
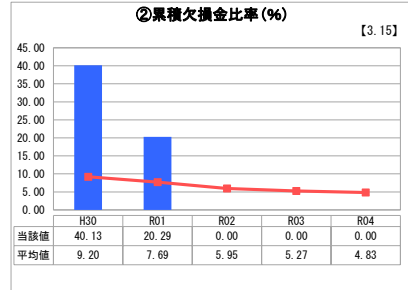
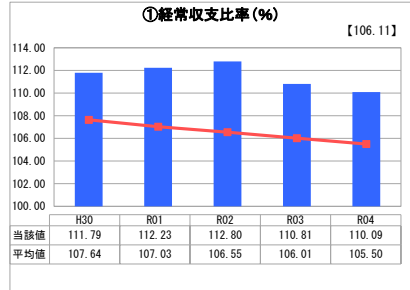
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ag1	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)
-	56.60	65.64	79.92	3,385

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
503,865	429.35	1,173.55
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
329,545	52.87	6,233.12

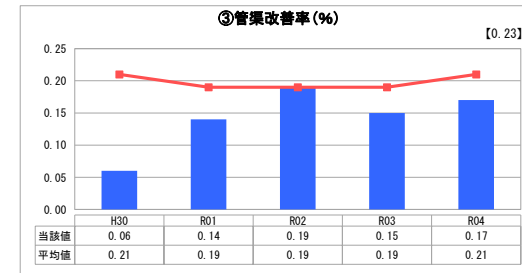
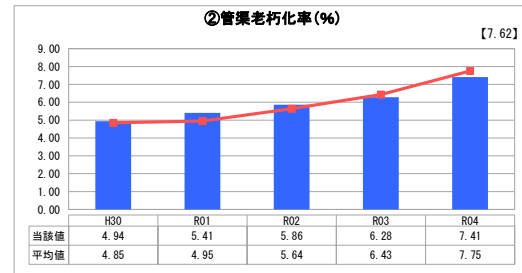
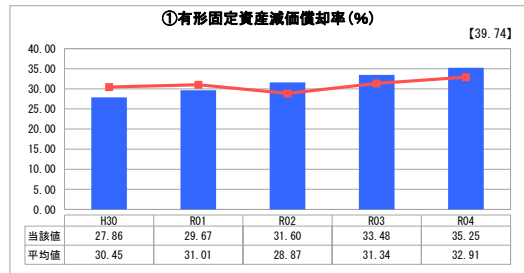
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本市公共下水道事業は、平成初期の10年間で、約2,000億円もの集中的な設備投資を行い、その財源として企業債を活用したため企業債残高が多く、利子負担が損益収支を圧迫し、「④企業債残高対事業規模比率」や「⑥汚水処理原価」が、類似団体と比べ高くなっています。

そこで、経営戦略策定時に管理指標を設定し、企業債の新規発行を適正な範囲に抑制することや、下水道の普及拡大、接続推進などの収入増加に繋がる取組、維持管理費等の縮減などに継続して取り組んでいます。

その結果、前年度に引き続き令和4年度も損益収支の黒字が確保でき、「①経常収支比率」「③流動比率」は類似団体を上回る結果となっています。また、「累積欠損金」については、令和2年度に解消しています。

「⑦施設利用率」と「⑧水洗化率」は、類似団体と比べ低くなっていますが、現在も下水道の普及拡大に継続的に取り組んでいます。

### 2. 老朽化の状況について

平成初期に集中して整備を行ったため、「①有形固定資産減価償却率」は、類似団体平均よりも低い数値でしたが、徐々に上昇し令和2年度から上回っています。また、「②管路老朽化率」は、類似団体平均と同程度で推移しており、計画的な改築・修繕の必要性が高まってきています。

「③管渠改善率」は、現在も下水道の普及拡大を進めている状況であり、類似団体平均を下回っていますが、老朽化した管渠に優先順位を付け、管更新工事など管渠の更新に取り組んでいます。

## 全体総括

過去の大規模な投資により企業債残高が増大し、利子負担額等の資本費が経営を圧迫する状況となりましたが、経営戦略で管理指標を設定し、新規発行企業債の借入抑制等による資本費の縮減や適正な維持管理、効率的な新規整備などに取り組んでいます。

その結果、令和4年度も損益収支の黒字を確保し、今後も、一定の期間は黒字が確保できる見通しです。

しかしながら、長期的には人口減少による使用料収入の減少や、施設の老朽化が進むことによる改築更新需要の増大が見込まれることから、経営戦略を適宜更新し、計画的に事業を進めるとともに、引き続き経営の効率化を図っていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。